

質問

# チップボイラ導入の

## 財源と将来構想は

## 交付金の活用と 公共施設の集約

構想は。

【北林義高議員】



**質問** 集住型交流拠点施設の建設に向け、チップボイラーの導入などの構想を持っているが、ウツドハツ力などは高額なため、初期負担が大きくなる。負担軽減にあたっては、どのような補助金の利用を考えているのか。また、北海道下川町では100キロワットから1200キロワットまで、11基のボイラーラーを導入していたが、どれくらいの規模を想定しているのか、将来

**村長** チップボイラーの導入にあたっては、次世代林業基盤づくり交付金を活用し、50%の補助で購入整備する予定である。集住型施設の周辺は、将来的には公共施設を集約して、暖房、冷房を集中管理することを検討している。当面、建物として考えられるのは、特別養護老人ホーム、診療所、保育園等の建物が、将来、考えられる。老朽化と同時に適正な維持管理ができるような規模を検討したい。

集中的な管理をすることにより、駐車場等、維持管理については管理人等も含めて、集中することによつて経費節減につながる。そのことによつて住民サービ

プロセス業の発展が見込まれる。原料確保については、間伐等で山に捨てられる残材をチップとして活用できないか、という事が考えられる。例えば、農家の方々に、軽トラックでチップ工場に運んでいただきたい。段階で、重量に応じて商品券などの支援をしていきたい。ボイラー等の普及については、公共施設の既設のボイラーレの更新時について、はチップボイラーに切り替える、新設の建設に伴う場合はチップボイラーレで検討していきたい。

を有効活用できると思う。将来構想については、整備をしないと山は荒廃するばかりなので、整備することによつて出てくる間伐材等によつて用材として使うもの、チップとして使うもの、仕分けしながら村として支援していきたい。ボイラーの大きさについては、実施設計を組んでいる段階なので、適正な大きさのもの、将来的なものを考えに入れながら検討していきたい。

**意見** 下川町では、300ヘクタールの山林で、50ヘクタールを伐採・造林・育林を60年間かけて行い、循環型森林経営を行つていい。町内産の木材使用を勧めている。むらでも山を動かすという言葉どおり、村の産業である林業の活性化を進めてもらいたい。



## 一の橋集落の集住化住宅(22戸)のチップボイラー (北海道下川町)

## 質問

# 村の伝統行事（国の無形民俗文化財）「万灯火」の存続と体験交流・観光交流の強化支援を

村長

## 体験メニューの具現化に向け 年間計画を策定中



【武石辰久議員】

### 来年度予算編成に向けて、成果及び課題解決方針と主要施策

**質問** 村の創生に、今後いかに具体的な施策で取り組んでいくか、来年度予算に向けての主要方針、施策は。

**村長** 村全体が過疎地域に指定されていることから過疎地域自立促進計画を総合計画とし、「健康づくり」「雇用の拡大」「教育立村」を図りたい。大きなハード

事業では、集住型宿泊拠点施設の建設、社会資本整備総合交付金事業による道路・橋りょう等の整備、リサイクルセンター建設、高能率生産団地路網整備事業（林道網）の負担金である。

健康づくりにつながる事業の掘り起こしと見直しによって、病気の予防や健康寿命を延ばしたい。日々の幼稚教育と学校教育を支援するとともに、中学生、高校生、社会人を対象にした海外研修、農林業研修やスポーツ合宿により、交流人口の拡大を図りたい。村有林2000ヘクタールを活用し、100年整備計画を新年度中に策定する。起業者、事業拡大をする人達を応援するため、要綱の見直しを図り、雇用拡大につなげたい。

**質問** 国の無形民俗文化財となっている「万灯火」は存続していくべき伝統行事。体験交流と観光交流の取り組みとして

①彼岸の中日の墓参りと合わせ、村出身関係者、家族の帰省者に対し、万灯火行事への参加の呼び掛け。

②春休み等を活用した、大学生の体験交流の募集。

③地域連携DMO「秋田犬ツーリズム」へ途中加入したが、点から線につながるように努力したい。PR動画がユーチューブで流れしており、アクセス数が100万回を超えていているということで、大変な反響のなか台湾・萬巒郷からもメールや

### 「万灯火」の存続と体験交流・観光交流提携の施策支援

#### 質問

国が無形民俗文化財となっている「万灯火」は存続していくべき伝統行事。

農業6次化を活用した農家民宿を推進したい。他市町に係る経費の助成や改修費、宣伝費等の補助など、支援策を検討したい。

①未来づくりプログラムの中で検討したい。

②武藏野大学や秋田美術大学の学生達が、最近では個別に村や集落の行事に積極的に参加している状況である。美術大学との連携協定、県との協力体制、地域住民との人的・経済的交流を深め、継続性を図つてみたい。

**意見** ふるさと会に対する呼び掛けなども考えてもらいたい。広範にわたって大学にPRし、上小阿仁村を体験していただき、若い発想の力で盛り上げてもらいたい。地域団体連携のもと交流人口を増やし、村民の心に「あかり（灯）」を「とも（点す）」「万灯火」を推進強化していただきたい。



彼岸の花団子づくりを体験する武藏野大学生  
(大海公民館)

年間計画を策定中である。この中で、万灯火体験を組み込んでおり、地域の伝統行事に参加していただくなにより、年間を通じたりピータとなっていただけるよう誘導するため、また、

受けている。台湾からのアクセス数が9割ということも聞いているので、台湾からの観光客が期待できると思っている。

# 議会の動き

第6回

## 議員全員協議会

11月4日(金)

協議案件

- ・上小阿仁村特別養護老人ホーム杉風荘の譲渡に関する公募型企画提案審査結果について
- ・上小阿仁村特別養護老人ホーム設置条例を廃止する条例について
- ・特別養護老人ホーム杉風荘財政調整基金条例を廃止する条例について

プロポーザル審査

村社協を選定

上小阿仁村特別養護老人ホーム杉風荘の譲渡に係る公募型企画提案審査が10月31日行われ、村社会福祉協

議会と秋田県民生協会の2法人が応募。審査の結果、第1優先交渉者を村社会福祉協議会とする選定報告がありました。

第4回

## 臨時会

11月11日(金)

杉風荘民営化に向け  
関係条例を可決

特別養護老人ホーム杉風荘民営化に伴う関係条例が提出され、全会一致で可決しました。

提出された議案は、「上小阿仁村特別養護老人ホーム設置条例を廃止する条例」「特別養護老人ホーム杉風荘財政調整基金条例を廃止する条例」の2件です。



平成29年4月から民営化となる特別養護老人ホーム「杉風荘」

## 小阿仁川水系 対策委員会 11月22日(火)

継続的な河川改修を要望  
8月23日実施の小阿仁川  
流況調査の結果を受けて、  
県に対する要望事項について確認しました。

第55回小阿仁川筋ダム対策連絡協議会が11月22日に開催され、堤防改修事業の情報提供と情報共有について要望しました。



河川環境について話し合われた小阿仁川筋ダム対策連絡協議会

